

研究課題 (テーマ)	ウェアラブルセンサによるバイタルデータの収集と健康モニタリング		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	情報システム工学科	教授	唐山 英明
分担者	情報システム工学科 射水市担当課	助教	崔 高超
研究結果の概要			
<p>近年、身体の活動状況や心拍数などの健康データを収集できるセンサが販売されており、徐々に一般に普及しています。このようなセンサを用いて日常的に健康情報を計測することによって、長期間の大量の健康関連データを得ることができます。日常的な健康関連データを分析することで身体的・認知的な働きが低下していることが分かったり、病気の兆候を捕えることができたりすると、健康寿命の延伸につながると期待できます。</p> <p>私たちは、射水市と企業と協働で射水市民の皆様に参加していただき実証実験を行いました。一年目の取り組みとして、30名の射水市民の皆様は腕時計型のセンサを貸し出し、日常的に装着していただく実験を行いました。このセンサによって得られる情報としては、身体の活動状況や心拍数、睡眠状態などでした。</p> <p>射水市民の皆様には、3回の「測定会」にも参加していただきました。この測定会では体重や腹囲を計測したり、指先からの計測によって日頃の野菜摂取量を数値化したり、保健師による健康に関するヒアリングを行ったりしました。また、この測定会に参加した皆様には、電子マネーをプレゼントしました。</p> <p>すでに行われた簡易的な解析の結果の一部としては、今回の実証期間における参加者の皆様の歩数の増加が認められた、などがあり、健康になりたいという皆様の考えがこの結果につながっている可能性があります。参加者の皆様の一部からは、任意で健康診断データもいただいています。このような健康診断データと今回のセンサのデータを併せた解析を進めていき、例えば病気の兆候が読み取れた場合にはそのご本人にお知らせする取り組みを行うことも計画しています。この実証実験によって3か月間程度の測定データが得られており、本学のDX教育研究センターでは、今後、このデータをより詳細に解析していく計画です。</p>			
今後の展開			
<p>本執筆現在、個人を特定しない形でデータ解析を実施していますが、その成果については今後の取り組みに活かしていきます。また、病気の兆候を見つけるなどの将来予測のためには、多数の参加者の皆様のデータが必要となりますため、募集の方策も今後の検討課題にしたいと考えています。</p>			